

『ウイルス性肝炎患者の受検・受診率の向上を目指して』

肝臓川柳

『肝陽性 患者紹介 しようかい』



(結局今年も駄洒落で締めさせていただきました・・・)

.....ノノノノノ

ウイルス肝炎のほとんどであるB型・C型肝炎、とくにC型肝炎は、
経口抗ウイルス剤の進歩により今や100%近くが飲み薬で治るようになり、
逆に放っておくと問題になる時代となりました。

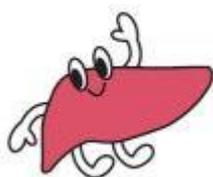
ウイルス陽性の方全員に、如何に検査を受け、診察、治療を受けていただくかが今の課題
ですが、院内での手術前スクリーニングなどでHCV抗体陽性と判明している
方の多くが何もせず放置されています。

次に行う血液検査HCV-RNAが陽性であれば、原則全員C型肝炎であり、
肝硬変・肝癌のリスクが高く、保険治療対象です。

HCV抗体検査を行った主治医は、HCV抗体陽性であると（C型肝炎の可能性のあることを）
患者さんに説明し、採血（HCV-RNA検査）をオーダーし、
肝臓専門医へ紹介する義務があります。

当院でも、HCV抗体陽性患者をリストアップして主治医にお知らせし、HCV-RNA血液検査施行
の上、陽性の場合は肝臓内科に紹介していただくシステムを構築し実施します。

また、各種健診でHCV抗体陽性が判明した一般市民に病院へ受診していただくために、
データベース管理、県・市町・医療機関のネットワーク構築、積極的な啓蒙活動、
肝炎コーディネーター養成など、国をあげての対策が待ったなしで行われています。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

C型肝炎は今や完治するような時代ですので、逆に見逃すと問題にもなる可能性もあります。
血液検査HCV-RNAが陽性であれば原則全員C型肝炎ですので、肝臓専門医に紹介を！
健診で判明した場合でも素早く受診していただくために、ネットワークの構築、啓蒙活動
など国をあげて対策を講じています。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)